

趣旨説明

F-2. 大学の社会貢献

大学の健康長寿に関わる社会貢献の例と提案

超高齢化社会である日本において、健康長寿の実現は喫緊の課題である。アメリカでは大学で学び引退生活を満喫する大学発高齢者住宅 CCRC が存在し、健康長寿を実現している以上に、地域の活性化や雇用まで創出している。また園芸療法は高齢者や孤独者や病気の改善にも効果があるとされ、日本でも実践されつつあり、東日本大震災で被災した地域での復興にも役立っている。このような事例について例示を行い、大学の社会貢献のため、今後の提案型 URA としての活動を考える。

今回は、大学で行われている活動について3名の演者から大学発スマートエイジング研究と社会実装、高齢者健康住宅 CCRC の事例、園芸療法の活用について講演をいただき、この3つの例から大学の健康長寿に関する社会貢献について活発な議論を行いたい。

オーガナイザー

房木 ノエミ : 所属 東北大学研究推進・支援機構 首席 URA(特任教授)



博士(保健学)東京大学。大学でのウイルス、がん、免疫、細胞内シグナル伝達、再生医療に関する研究を基盤とし、企業ではがん診断薬、免疫療法、安全な iPS 細胞の樹立法の確率を目指した研究開発を行ってきた。

2017 年から 大学と企業で培ってきた知識や経験、研究者ネットワークなど多様な実務経験を活かし、現職。また知の創出センターにて国際シンポジウムの開催や若手国際共同研究のコーディネータ業務を担っている。

現在は JST の PM (プログラムマネジャー) 研修の 2nd Stage にて超高齢化社会における健康長寿を目指した提案を推進。

講演者

村田 裕之 : 東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター 特任教授
東北大学ナレッジキャスト株式会社 常務取締役



99 年にアクティブシニア、スマートシニア市場の到来を予言したわが国シニアビジネス分野のバイオニア。シニアの特性や行動を踏まえた独自の視点と分析を基に、中高年女性フィットネス「カーブス」、NTTドコモ「らくらくホン」、本学発の認知症非薬物療法「学習療法」の米国輸出など日本を代表するシニアビジネスの成長や商品開発に大きく貢献した他、多くの民間企業の新規事業を支援。06 年スマート・エイジングのコンセプトを提唱し、東北大学スマート・エイジング国際共同研究センター(現:学際重点研究センター)設立に参画。高齢社会研究の第一人者として講演、新聞・雑誌への執筆、著書も多数。高齢化の国際情勢にも詳しく、海外諸国より頻繁に講演者として招聘される。18 年 5 月 Asia Pacific Eldercare Innovation Awards により優れた業績を上げた人として「GLOBAL AGEING INFLUENCERS」に選ばれた。

松田智生 : 所属 三菱総合研究所 主席研究員 チーフプロデューサー



66 年東京生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。専門は地域活性化、アクティブシニア論。高知大学・日本福祉大学客員教授。全国各地で産官学のアドバイザーを務めると共に、近年はドイツ、イタリアとの高齢社会の国際共同研究を推進中。委員として、政府日本版 CCRC 構想有識者会議委員、内閣府高齢社会フォーラム企画委員、石川県ニッチトップ企業評価委員、浜松市地方創生アドバイザー、岐阜市政策顧問を歴任。著書に「日本版 CCRC がわかる本」、「明るい逆参勤交代が日本を変える」。論文:「民間主導型 CCRC の現状と課題」(都市住宅学会)

岩崎 寛 : 所属 千葉大学大学院園芸学研究院 准教授



博士(農学)岡山大学。上級園芸療法士。専門は緑地福祉学、環境健康学。人と植物とのより良い関係について、緑地や植物からの視点に加え、医学、看護学、心理学など様々な視点から研究を進めている。具体的には、園芸療法やアロマセラピー、森林療法など「緑の療法的効果」に関する研究と、それらを実践する場である病院など「医療福祉機関における緑のあり方」や地域住民の健康に寄与する「緑による地域ケア」に関する研究を行っている。日本園芸療法学会理事、日本ガーデンセラピー協会理事、日本緑化工学会副会長。